

【事業実績】「古代オリエント」で集まり、つながり、広がる！ミュージアムプロジェクト

1.ユニバーサルミュージアム化の充実

(1)ハンズオン教材作成：展示資料の3Dデータを取り、同寸または縮小・拡大した複製品を制作。展示室で利用するほか、視覚障害者向け展示解説用の教材として活用。

【体験者の感想】

- ・目でみていると気づかなかった彫刻の緻密さに驚いた。
- ・古代の人の技術の凄さを感じた。



↑（上図）小さい印影を2倍に拡大して凹凸をさわる。
←（左図）展示資料（浅浮雕）の脇に複製を置き、実物を見ながらさわる。

(2)視覚障害者向けサービスの充実

▶視覚障害者向け展示解説

触図、複製品、実物を取り混ぜて展示資料を解説。申込み制で閉館後の展示場内で少人数限定で実施。9月10日（土）、11月1日（火）、11月13日（日）

【参加者の感想】

・触ってわかる素材の性質を体感することができ、その後のギャラリートークとのつながりも深く理解できた。・点字の地図がわかりやすくてよかった。今後も参加したい。・実物を触ることができたのがよかった。レプリカで器の厚みがよくわかった。拡大したレプリカがわかりやすい。



ハンズオン教材をじっくりさわった後、実物の土器も触る。



音声ガイドを聞きながら展示場を回覧。

▶「さわって体験！ハンズオン・ミニ展示室」

11月1日（火）「点字の日」に申込み不要で視覚障害者が参加できるコーナーを設置。展示品複製品や触図を自由にさわってもらい、研究員が随時解説をした。

▶視覚障害者および介助者の方には、自由に音声ガイドを利用してもらった。

(3)聴覚障害向けサービス

導入部で放映中の「映像でみる古代オリエントの世界」（英語、韓国語、中国語字幕）に聴覚障害者も見ることができるように日本語の字幕を追加した。音声ガイドを冊子として利用できるようにした。



(4)多言語化充実

子ども向け館内配布用として日本語英語併記「年表・地図」を制作。子どもたちがプリントやスケッチなどを挟んだり、展示場内で気づいたことなどを書き込んだりできる紙ファイルとした。



2.豊島区内のミュージアムとしての役割の強化

(1)子ども向けイベント開催

10月2日「ガラス絵作りのひみつ」参加 30名

1月9日（月）「ミイラ作りのひみつ」参加 29名

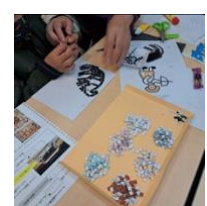
3月5日（日）「ミイラとユダヤのたてものひみつ」参加 12名

【参加者の感想】

・みんなでミイラをつくったのが楽しかった。・学習とワークショップの組み合わせで知識向上に効果がある。・保護者の大人も勉強になりとても楽しかった。古代に子供がとても興味をもち、楽しんでいた。・初参加でしたがとても楽しかった。穴埋めシートでは子どもが真剣に聞き入っていたので、勉強にもなった。



展示室で古代エジプトの護符を観察。



紙でモザイク作りに挑戦。

▶池袋サンシャインシティ内に子ども向けイベントへの参加

9月17日（土）、11月5日（土）

外空間で実施される子供向けイベント（近隣の低学年の子どもたちが集まるイベント）に参加。土器を復元するパズルを実施。



土器パズルを楽しむ子どもたち。



たんけんシートと円筒印章葉

▶「たんけんシート」制作、配布。

展示場で資料をさがすシートをサンシャインシティ内で配布。来館して完成して完成すると円筒印章の印影を図化した葉やシールをもらい、その資料をさがす次のステップに進む。

(2)豊島区住民、在勤者向けイベント開催

▶博物館における大人向けイベントの開催

・館内で鑑賞するインド舞踊（10月10日）やワークショップ（11月23日）を開催。女性が多く参加してくれた。

▶在勤者向けイベント：豊島区、特に池袋サンシャインシティ内のオフィスに勤務する方向けの特別ツアーを実施。時間は早朝、昼休み、閉館後など勤務者が来やすい時間帯とした。サンシャインシティオフィス在勤者入館者数が、2022年4～8月で29名が9～3月で264名(月33名)と激増。アンケート結果も5段階で4.49と高くリピーターも多かった。

- ・10月20日、24日、26日、27日
- ・11月16日、24日、25日、1月25日、26日

[参加者の感想]

・近くにいなから博物館の中を見たことがなかったので良かった(女性)。仕事帰りに行こうとすると時間が合わず、業務が忙しく見る時間が取れなかったが、今回参加できてよかった(男性)。内容が難しそうで今まで行かなかったが、短時間に分かりやすく丁寧に説明してもらえた(年齢性別未記入)。仕事終わりに行きたくても行けなかったが、内容も素人に優しく満足。また来たい(30代女性)。解説付きで展示を観れたので理解が深まった。今後も研究員さんの解説がある企画に参加したい(20代女性)



▶池袋サンシャインシティ内の施設との連携イベント

サンシャインシティ内のカフェ（GLOCAL CAFE）のギャラリーに展示資料紹介パネルを掲示。また、ワークショップ「カフェでインド体験！インドの伝統的ボディアート：メヘンディ」を開催。博物館に来たことが無かった若い方がイベント終了後に博物館を観覧する機会となった。9月26日(月)、11月19日(土)



(3)豊島区との連携

▶豊島区役所「庁舎まるごとミュージアム」に、展示資料をやさしく解説した子供向けと大人向け2種のパネルを展示。

▶「としま文化の日」(11月1日～10日)とのコラボ企画として庁舎まるごとミュージアムと古代オリエント博物館を訪問してクイズを楽しむ企画を実施。

▶豊島区中央図書館内に博物館展示資料コーナーを設置。



3.新しい鑑賞システムの発信

(1)AR・VRを用いた展示解説

ミイラのCT画像解析によって得られた最新の調査成果をパネルと動画で紹介。VRゴーグルでミイラの中身を見るワークショップを開催。

[参加者の感想]

・ミイラの中を見れて面白かった。遺跡に行って研究をしてみたい(10代女性)。これまで見たことがない視点で視野が広がった(40代男性)。体験型の講座で大変楽しめた。いろいろな情報を知ることができた(40代男性)。今回のような新しい見せ方や異なるジャンルとのコラボにどんどんチャレンジしてもらいたい(50代男性)。体験するのは聞くのとは違う。大変良い内容だった(60代女性)。VR画像すごい。今後の技術の発展が待ち遠しい(70代男性)。



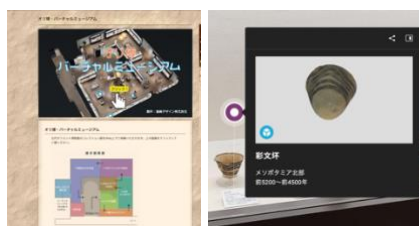
(2)所蔵資料のインターネット検索・鑑賞システムの構築

▶バーチャルミュージアム3D画像

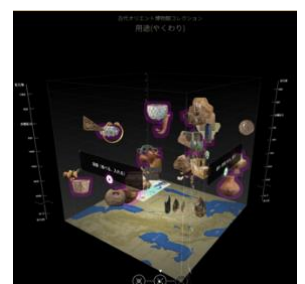
WEB上で3D画像を操作できる。

▶みどころキューブ

展示資料38点を地域、時代の軸に配置。4面(時代・地域、素材、形・模倣、用途)のテーマで資料を選択し詳しい解説を知る。



マウス操作で、上からのぞきこんだり、側面、底面と回転させ、360度自由に鑑賞。



みどころキューブ